

○ 調査問題

12 あなたは、外国人の友達から英語の手紙を受け取りました。その手紙の中で、好きな季節について問われました。そこで、あなたは自分の答えとその説明を次のように書こうと考えました。

. We can see snow\*.  
I go skiing\* with my family in February.

(注) \*snow: 雪 skiing: スキー

後の文につながるように、空欄に当てはまる英語の文を解答欄に1文で書きなさい。  
ただし、1文は2語以上とします。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】自分の考えに関する説明にもとづき、英語で主張を明確に書く。  
【出題の趣旨】主張を書くことができる。

○ 誤答分析

解答類型	① 正答 I like winter.	2 誤答	3 その他	0 無解答
反応率	54.8%	5.5%	18.9%	20.8%

- 正答率は、54.8%であった。内容面・言語面ともに正確に記述されているものを正答としている。また、動詞に love を使用しているものや主語が We となっているものも正答とした。Winter と1語のみが記述された解答や、winter のスペルミスなども準正答として扱っている。(正答と同様の扱い)
- 誤答では、言語面に誤りはないが、winter の代わりに February や Hokkaido、fall と書くなど内容面で不適切な解答が見られる。問題中の英文から類推し、解答していることが考えられる。
- その他の誤答では、winter 以外の単語にスペルミスがあるものに加え、I like season winter. と記述するなど、文法を正確に理解できていないことが考えられる。
- 無解答が20.8%と正答について高い数値となっている。原因としては、問題中の英語を意識しすぎてしまい問題を正確に読み取れていない、英語をどう書いて良いか分からない、英語を書くことに対する苦手意識の強さが考えられる。

## ○ 指導上のポイント

### 無解答の生徒や文法理解に課題のある生徒の実態に合わせた「書くこと」に関する指導

#### (1) 英語を「書くこと」への抵抗を減らす工夫

授業の中でトピックを与えて、書くことを習慣化させ書くことへの抵抗を減らしていく活動を帯活動のように継続して行う。その際、以下のポイントを大切にする。

①書く活動について目的意識を持たせるために、活動のゴールのイメージを持たせること。

(例) 授業で書いた英文は最終的にはスピーチの原稿になる。または、書き溜めた英文は生徒自身の自己紹介の成果物になるなど。

②適切なテーマを設定すること。

(例) 生徒全員が関わりのあること、興味関心が高い内容、他者のことを知りたいと思えるような題材、ある程度生徒が書ける内容のものにする。書く内容が広がらないテーマは設定しないよう注意する。

#### (2) 英語の語順を身に付けさせる工夫

授業中の「話すこと」や「聞くこと」などの言語活動を通して、英語の語順を身に付けさせる。また、学習したことを定着させるため、十分慣れ親しんだ表現を、自分の言葉として主体的に書かせる活動を授業の中で継続して行う。以下のような具体的な活動が考えられる。

①ALT との Small Talk (聞いたり、話したりすることで英語の語順に慣れる)

②dictation (聞いたことを文字にして、語順に慣れる)

③教師と生徒、生徒同士のやり取り (英語でのやり取りを繰り返すことで、語順に慣れる)

④自分の考えや思いなどを表現する英文を書く (新出文法の学習時に、既習事項も使いながら正しい語順を身に付ける)

※英文を書く活動の中で、ペア、やグループという形態を効果的に活用し、お互いに教え合いながら英文を書く、完成した英文を読み合う、内容について英語で質問し合う、考えや思いを共有するなどの活動に発展させることで、書いた英文の価値付けをしていく。



#### 小中連携の視点

小学校では様々な場面で4つの季節について、音・文字・意味のリンクができるように慣れ親しんできています。(例: We can!②P6)



主体的、対話的で深い学びの視点

## ○ 復習シート・コバトン問題集の活用

2 次の(1)の指示にしたがって、英文を書きなさい。

(1) オーストラリアに住む友達のクリス(Chris)からメールが届きました。そのメールには、クリスが「日本の季節のこと」について興味があることが書かれています。そこで、以下の内容でクリスにメールを送ろうと考えました。

【内容】あなたの好きな季節と、その季節が好きな理由について

【条件】①3文の英語で書くこと。

②1文目は、I like ~ で書き始めること。

【出典】復習シート (H31)

2年生・英語 レベル10・11

「書くこと」について問う問題

○ 調査問題

- 6 次の日本語の意味を表すように、ア～オを並べ替えて英文を作りなさい。そして、それぞれの答えで2番目と4番目にくる語句を選びなさい。(文の始めにくる語も小文字になっています。)

(2) あなたの兄は毎日何を勉強しますか。

\_\_\_\_\_ every day?

2番目

4番目

ア your    イ does    ウ study    エ brother    オ what

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 一般動詞の疑問文の正しい語順を選ぶ

【出題の趣旨】 正しく文を組み立てることができる

○ 誤答分析

解答類型	① 正答 イ-エと解答	2 誤答 ア-イと解答	3 その他	0 無解答
反応率	58.6%	9.0%	32.0%	0.4%

○正答率は58.6%であった。誤答としては、「ア-イ」と解答した生徒が9%と最も多く、What your brother does study (every day)? のような語順で並び替えたと考えられる。また「イ-ア」「ウ-ア」と回答した生徒もそれぞれ5%ずつであった。

「イ-ア」と答えた生徒は What does study your brother (every day)?

「ウ-ア」と答えた生徒は What study does your brother (every day)?

のような語順で並び替えたと考えられる。

○多くの生徒は、疑問詞を文頭に置くことは理解できているが、一般動詞の疑問文の語順を理解できていないことが原因と考えられる。特に、三人称単数現在で用いられる does が主語の前にくるということが認識できていなかったことが考えられる。

○また、What fruit do you like?のような、「疑問詞+名詞」の形と誤って捉えた生徒も少なからずいると考えられる。

## ○ 指導上のポイント

### 様々な場面で疑問文を作る機会を与え、定着を目指す指導

(1) 帯活動等で継続的に既習の表現をインプットする。

例えば、small talk で意図的に対象の表現を使いながら教師が生徒とやり取りをする活動や、ペアでお互いに日本語を英語で表現できるかを確認し合う活動などが考えられる。

(2) 1分間フリートーク（ペア）から、会話の共有、Q & A活動を定期的に行う。

①教師がテーマを提示し、生徒は1分間会話を続ける。

※活動で使う表現は規定せず、できるだけ既習の知識をフル活動して会話するよう促す。

(例) テーマ : country

Which country do you want to go?

I want to go to Italy.

Why do you want to go to Italy?

Because there are many famous places to see.

What do you want to see there?

I want to see Colosseum.

主体的、対話的で深い学びの視点。

②活動後に代表のペアに発表させる。

③その発表内容について、教師が Which country does he/she want to go? など三単現の疑問文を用いながら、内容を確認するためのインタラクションを行う。

(3) 教科書の内容理解の確認として、教科書本文の Q & A 形式によるリテリングを行う

①単元のまとめとして本文に関する Questions & Answers を生徒により作成する。

②お互いに Question を出し合い、教科書を見ながら答える。

③数人の生徒がクラス全体に出題する。

※活動の途中に、What does he/she~? の Question の例を示すことを通して、つまづいている生徒や活動が滞っているペアへの支援をする。

## ○ 復習シート・コバトン問題集の活用

1 次の英文 (1) ~ (5) の ( ) に入れる単語として最も適切なものを、下のア~エのうちから1つ選びなさい。

(1) A : What ( ) you do last Sunday?

B : I studied English with my friend.

ア do イ did ウ does エ are

レベル8・9

【出典】 復習シート  
中学3年生・英語  
「読むこと」